④共同追究前半（解法の比較検討）

「2つの三角形に分けて，180°×2で，

4つの角の和は360°になる。」

「今までにも，『分けて』答えを求めた学習があったね。」

③個人追究：三角形に分けて，角を求める方法を説明する。

見通し：三角形の時のように角を集める。(操作を全体で確認)

｢三角形の角の和は180°」が使えないかな。

→四角形を三角形に分ければ使えそうだ。

②学習課題：線をひいて四角形を三角形に分けて，4つの角の大きさの和が360°になることを説明しよう。

本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

折ったり切り取ったり並べたりして角を集めて，三角形の3つの角の和が180°になることを説明できる。

○既習内容とつなぐ見方・考え方

4年「角とその大きさ」において，角を2つに

分けることで180°より大きい角を求める学習をしている。

教材研究ノート№5-B-6

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・たった1本線をひくだけで，四角形を三角形2つの集まりと見ることができ，四角形の角の和を求めるのに「三角形の角の和は180°」が使えた。

・余分な角を見つければ，分け方が違っても求められる。

⑥定着･活用問題

(1)3つの三角形に分けても，四角形の角の大きさ

の和は360°になることを説明しよう。

(2)「三角形の3つの角の大きさの和は180°になる」ことを使って，五角形の5つの角の大きさの和を求めよう。

④共同追究後半（思考を深める）

「対角線をひいたら4つの三角形に分かれて，

180°×4で720°になってしまうよ。」

→「三角形の角に印をつけると，対角線の

交点に集まった角は余分だから，720°

から一回転の角360°をひいて360°になる。」

●

●

●

▲

▲

▲

**×**

**×**

◆

◆

◆

**×**

≪学習問題≫

四角形の4つの角の大きさの和は，

何度になりますか。

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・前時（三角形の内角の和）の操作活動を繰り返すのでなく，補助線の利用に着目した後半の追究の時間を確保し，基本図形として三角形を認識させることを強調したい。

・補助線で分けることで既習内容が使えた経験として，180°をこえる角の大きさやＬ字型の図形の面積を求める学習場面を想起させたい。